

ケニアの農業投資促進政策・投資環境と 本邦企業の進出可能性

里山 隆徳
戦略的農業開発アドバイザー
Ministry of Agriculture and Livestock Development
Kenya

Wed, 10th of July, 2024

Outline

1. Introduction

アフリカ・ケニアについて
アフリカ諸国の持つ課題

2. ビジネス・投資先としてのアフリカ

3. ビジネス・投資先としてのケニア

なぜケニアなのか？
ケニアの抱える課題
増える投資

4. JICAの取り組み

1. Introduction

Introduction — アフリカについて

- 国数：54カ国（サブサハラ以南は46～48カ国）
- 面積：3,036万km²
（日本の80倍、インドの9倍、アメリカや中国の3倍以上）
- 人口：12.41億人 【世銀、2022】
- 歴史：
 - 植民地支配
 - 50年代後半から80年代にかけて独立
 - 90年代までは低開発に悩む（飢饉・貧困）
 - 2000年以降は社会経済発展が進む



Introduction — ケニアについて



- 国名：ケニア共和国
- 面積：580.3万km²（日本の1.5倍強）
- インド洋に面し、近隣5カ国と国境を接する
- 人口：5,510万人（人口増加率1.9%）
- 首都：ナイロビ（人口—およそ440万人）
- 他主要都市：モンバサ（人口—およそ140万人）
— 東南部アフリカ有数の港をもつ
- GDP：1,074億ドル — 日本の約40分の1
（一人あたりGDPは1,983ドルで日本人の17分の1）
- 全国に47郡（2013年より地方分権も進む）

Introduction — アフリカ諸国の持つ課題

一般的に・・・

- 低いキャパシティ（財政、行政能力、人的資源 ほか）
- 未熟な法体系、行政機構、
- 不安定な社会（紛争、政情不安、テロや治安の問題）
- 自然・気候上の問題（旱魃、洪水、疫病、病虫害 など）

※アフリカは広く多様なため、あまり一般化は出来ない点に留意

これら多くの課題にも拘わらず、近年アフリカはビジネス・投資先として世界から注目を集めている



2. ビジネス・投資先としてのアフリカ

ビジネス・投資先としてのアフリカ

＜増える投資＞

- 2023年のアフリカへの海外直接投資（FDI）は5,300億ドルー2010年の1,000億ドルから5倍以上の伸び（UNCTAD、2023）
- 2008年の世界的な食料価格高騰を契機に大規模な農業投資も増加
(e.g. OLAM Group in Nigeria since 2011, Duxton Asset & Management in Tanzania since 2013, Netafim in Rwanda since 2018)

なぜアフリカなのか？

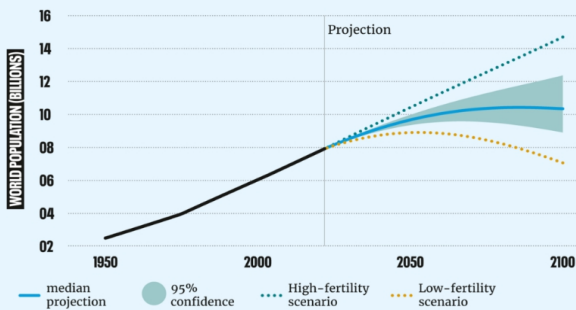
- 高い人口増加率
- 経済成長ポテンシャル
- 高い市場ポテンシャル
- 利用可能な土地・水資源

ビジネス・投資先としてのアフリカ

<高い人口増加率>

- 2023年の世界人口は80.4億人、うちアフリカ人は12.4億人【世銀、2023】
- 世界人口は2050年に97億人に増加する予測だが、その時にアフリカの人口は25億人【UNFPA、2022】

UN POPULATION PROJECTIONS TO 2100



国名	人口	地域
ナイジェリア	223百万	西部アフリカ
エチオピア	126百万	東部アフリカ
エジプト	112百万	北部アフリカ
コンゴ民主共和国	102百万	中部アフリカ
タンザニア	67百万	東部アフリカ
南アフリカ	60百万	南部アフリカ
ケニア	55百万	東部アフリカ
ウガンダ	48百万	東部アフリカ
スーダン	48百万	東部アフリカ
ガーナ	34百万	西部アフリカ
モザンビーク	33百万	南部アフリカ
コートジボアール	28百万	西部アフリカ
カメルーン	28百万	中部アフリカ
セネガル	17百万	西部アフリカ
ルワンダ	14百万	東部アフリカ

ビジネス・投資先としてのアフリカ

<高い人口増加率>

- 2023年の世界人口は80.4億人、うちアフリカ人は12.4億人【世銀、2023】
- 世界人口は2050年に97億人に増加する予測だが、その時にアフリカの人口は25億人【UNFPA、2022】
- 現在のアフリカの人口増加率は2.54%。南アジア・東アジアは1%、インドは0.7%、世界は0.8%
- UNFPAの予測では、2050年までに南アジア全体では5億人の増加（うちインドは2.5億人）。東アジアは1,700万人減、欧州はほぼ横ばい。アフリカは12.5億人増加の見込み

国名	人口	地域
ナイジェリア	223百万	西部アフリカ
エチオピア	126百万	東部アフリカ
エジプト	112百万	北部アフリカ
コンゴ民主共和国	102百万	中部アフリカ
タンザニア	67百万	東部アフリカ
南アフリカ	60百万	南部アフリカ
ケニア	55百万	東部アフリカ
ウガンダ	48百万	東部アフリカ
スーダン	48百万	東部アフリカ
ガーナ	34百万	西部アフリカ
モザンビーク	33百万	南部アフリカ
コートジボアール	28百万	西部アフリカ
カメルーン	28百万	中部アフリカ
セネガル	17百万	西部アフリカ
ルワンダ	14百万	東部アフリカ

ビジネス・投資先としてのアフリカ

<経済成長ポテンシャル>

- 2023年のアフリカ全体のGDPは2.32兆ドル。成長率は3%（10年平均で2.6%）
- 2023年に主に5%以上の成長を遂げた国はコンゴ民、ルワンダ、コートジボアール、エチオピア、モザンビーク、ケニア、ウガンダ、タンザニア等
- 過去10年間の成長もエチオピア、ルワンダ、コートジボアール、コンゴ民、セネガル、タンザニア、ガーナ、ウガンダ、ケニアは4%以上の成長
- 各国は都市部を中心に急激に成長

国名	GDP	GDP 成長率 (2023)	GDP 成長率 (2014 - 23)
南アフリカ	377 (10億ドル)	0.6%	0.8%
ナイジェリア	362 (10億ドル)	2.9%	2.1%
エチオピア	163 (10億ドル)	6.5%	7.8%
スーダン	109 (10億ドル)	- 12.0%	- 1.0%
ケニア	107 (10億ドル)	5.4%	4.6%
タンザニア	79 (10億ドル)	5.2%	5.4%
コートジボアール	78 (10億ドル)	6.5%	6.3%
ガーナ	76 (10億ドル)	2.9%	4.9%
コンゴ民	66 (10億ドル)	8.6%	5.8%
ウガンダ	49 (10億ドル)	5.2%	4.7%
セネガル	31 (10億ドル)	3.7%	5.4%
モザンビーク	20 (10億ドル)	5.9%	3.9%
ルワンダ	14 (10億ドル)	8.2%	6.7%
SSA Total/平均	2 (兆ドル)	3.0%	2.6%
世界 Total/平均	105 (兆ドル)	3.0%	2.7%

[World Bank Open Database, 2023]

ビジネス・投資先としてのアフリカ

<高い市場としてのポテンシャル>

- 高い人口増加率
 - 現在の低いGDP + 高い経済成長率
- これらを併せて市場としての潜在規模が大きいと言える

<利用可能な土地・水資源>

- 低い人口密度（49人/km² - アジアの3分の1以下）
- 広大な未利用地（アフリカ全体の可耕地の65%は未利用 - アフリカ開発銀行）
- アジア・欧州などの他地域では利用可能な未開発地（農地）はほとんどない。（南アメリカ大陸には未利用可耕地が残っている）

3. ビジネス・投資先としてのケニア

ビジネス・投資先としてのケニア

なぜケニアなのか？

近隣国と比較してケニアが優っている点

- 良好なビジネス・投資環境
- 市場規模と伸び率（人口と経済・成長率）
- 交通アクセスの良さ（航路・海路輸送上の優位性）
- 地域のハブとしての機能

ビジネス・投資先としてのケニア

<良好なビジネス・投資環境>

- 政府によるビジネス・投資促進政策・体制
 - ケニア投資庁によるOne Stop Service(法人登記、税務登記、各種許認可取得支援等)
 - 経済特区 (SEZ: 各種免税、地代優遇等)
 - 官民連携プロジェクト(PPP)
- 競争力のある金融セクター
- 能力のある人材 (ビジネスコミュニティ、教育、言語)
- 法整備が整っており、各種規制に実効力がある (アフリカ他国と比較してある程度機能している)

国名	Ease of Doing Business Ranking
ルワンダ	38
ケニア	56
ウガンダ	116
タンザニア	141
エチオピア	159
コンゴ民	183
ナイジェリア	131
<参考>	
日本	29
中国	31
インド	63
ベトナム	70
インドネシア	73

[World Bank, 2023]

ビジネス・投資先としてのケニア

<市場規模と伸び率>

- 人口規模はアフリカ第7位の55百万人。東部アフリカではエチオピア(126百万人)、タンザニア(66百万人)に次ぐ第3位
- GDPはアフリカ第5位。東部アフリカではエチオピア、スーダンに次ぐ第3位。一人当たりGDPはUSD1,950でアフリカ17位。石油や鉱物資源の豊富な国や、観光立国の島国であるセイシェル等を除くとアフリカ第5位。
- 2023年の成長率は5.4%、過去10年間も4%以上

<交通アクセスの良さ>

- ◆ アフリカ有数の航路を持つケニア航空
(ナイロビ国際空港はアフリカの主要ハブ空港の一つ)
- ◆ 東部アフリカ有数のモンバサ港を有する

ビジネス・投資先としてのケニア

<地域のハブ機能>

- これらを総合的に見て、ケニアは周辺国へのビジネス・投資展開のハブとして機能できる
- EACを利用した他国への展開（東部アフリカ地域全体をマーケットとしてとらえることが可能）

ビジネス投資先としてのケニア

<ケニアでの諸課題>

- 地方分権にかかる混乱
- 頻繁な制度、規制の変更（税制等）
- 社会的混乱（選挙時など）
- 治安・汚職の問題
- 低い生産性と非効率なバリューチェーン

→ それでもケニアへの国内外からの投資、ビジネスは旺盛

- ⌚ FDI、Start upの件数及びその額はアフリカ第1位（UNCTAD, IFC）
- ⌚ 農業では米国が畜産分野・その他の投資を行う（米国政府による支援）
- ⌚ ドイツによるドローン技術（ドイツ政府による支援）
- ⌚ 欧米、中国などによる農業機械の展開

ビジネス投資先としてのケニア

＜農業分野の課題＞

- 経済全体の中で農業の比率は低下している（GDPの25%程度）
- 政府の農業予算も少ない（全体の2%程度）
- 国内外からの農業への民間投資額も2023年度、過去5年の平均共に2.2%程度
 - 民間からの投資全体の中で農業分野の比率が低い主な理由は、農業特有の不確実性（天候や市場等）、不動産開発や貿易、観光等のサービス業や製造業に比べて実入りが少ない点などがあげられる

.....それでもケニア農業分野への民間投資・ビジネスは活発化している。

- ▽ 農民の高齢化（平均年齢は約60歳）と農業従事者数の低下
- ▽ ICTの発達により、農民による情報や金融へのアクセスが向上
- ▽ 機械化サービスも拡大
- 国内外からの多数の農業分野への投資やベンチャー企業が生まれている

4. ケニアにおけるJICAの取り組み

ケニアにおけるJICAの取り組み

<AFICAT>

- 本邦企業による農業資機材のアフリカ展開支援（調査、情報提供、実証パイロット等: e.g. KETTー水分計、SPECー土壤硬化剤、ホンダー耕運機）

<民間連携事業>

- ◆ 本邦企業によるアフリカへのビジネス進出支援
（調査、パイロット支援等 e.g. フジターパッシブ型農産物貯蔵庫、落合刃物ー緑茶製造技術、KiliMOLー中古田植機）

<アグロインダストリービジネス展開のための行政支援強化プロジェクト>

- ◆ ケニア政府関係機関に対して、行政による民間支援サービス強化のための枠組みを目指す
 - ▽ 情報の収集・整理・発出
 - ▽ 関係省庁・機関間の連携強化
 - ▽ 民間業者・投資家・関係ステークホルダーとのマッチング強化